



鹿児島県日置市との交流40年

本町の姉妹都市・鹿児島県日置市は、1983(昭和58)年に旧東市来町との姉妹都市盟約を締結し、今年で40周年を迎えました。

新型コロナウイルスの影響で令和元年を最後に止まっていた人の交流が40周年を迎えた今年から再開することができました。

これまでの40年の歩みをご紹介します。

恵まれた自然資源の中で 歴史を刻んできた日置市

日置市は鹿児島県の薩摩半島中部に位置する市です。2005(平成17)年5月1日に、日置郡の4町、伊集院町、東市来町、日吉町、吹上町が合併して誕生しました。



人口およそ4・7万人。県庁所在地の鹿児島市と隣接し、同市のベッドタウンとしても発展しています。平均気温約17℃という温暖な気候で、特産品はお茶や和牛、焼酎など。また東シナ海に面しており、天然塩やちりめんじゃこの生産も盛んです。

薩摩焼の歴史とも深い関わりがある地域で、現在でも旧東市来町美山地区などに窯元が開かれ、陶器のまちとしても知られています。

永山氏の功績がきっかけ 1千800キロを超えた絆



弟子屈町と日置市の距離は直線です。約1千800キロ。北海道と九州、遠く離れたこの2つの町と市が姉妹都市となるきっかけは、同市(旧東市来町)出身の故永山在兼氏(写真)の存在でした。

永山氏は1889(明治22)年、鹿児島県東市来町(現日置市)出身。東京帝国大学(現東京大学)土木工学科を卒業し、1915(大正4)年に北海道庁に入庁します。遠く北海道を目指したのは、同郷の先輩・吉利智宏氏が北海道開拓に尽くしたことを知って感銘を受け、自分も北海道開拓に尽くすことを決意したからといえます。

両町の交流に大きく貢献 観光の第一人者・種市氏



初代弟子屈図書館長であった、故種市佐次(写真)で改氏(写真)です。

姉妹都市盟約のきっかけとなったのは永山在兼氏ですが、その経緯を語る上で欠かせない方が本町にいました。

種市氏は1923(大正12)年、釧路市出身。14歳で国鉄(現JR)に入庁し、旅客・観光を担当してきました。1960(昭和35)年、東北北海道観光連絡協議会に参画、「タンチョウ」「流水」「白鳥」の「三白観光」を提唱するなど、後に観光の第一人者として知られていきます。1974(昭和49)年から釧路観光連盟事務局長、1985(昭和60)年から釧路圏摩周観光文化センター資料室長、1989(平成元)年からは弟子屈図書館長を務め、1991(平成3)年に67歳で亡くなっています。

種市氏は、釧路観光連盟事務局長就任時に「阿寒国立公園40周年記念誌」の編集に携わり、阿寒国立公園指定に大きく貢献した阿寒横断道路と永山氏について調べ始めます。調査を進める中で、永山氏の故郷・東市来町と連絡を取るようになり、それがきっかけと



当時の阿寒横断道路

横断道路の完成を受け、1934(昭和9)年には阿寒国立公園に指定されるなど、道東観光発展の基礎を築く上で、永山氏が果たした功績はとてつもなく大きかったです。地域の人々は後に、この道路を「永山道路」、永山氏を「阿寒国立公園の父」と呼ぶようになったといえます。

この縁で1983(昭和58)年、本町と東市来町(当時)との姉妹町盟約が結ばれ、4町合併により同町が日置市となった2005年以降も、姉妹都市盟約として継承されています。

なつて1979(昭和54)年、鹿児島県の地元紙・南日本新聞で永山氏の道東道路開発の業績が紹介されました。

これを経て、本町が東市来町との交流を正式に希望し、本格的な両町のやり取りが始まります。翌1980(昭和55)年、阿寒国立公園広域観光協議会が、銚別地区に「永山在兼顕彰の碑」を建立。永山氏のご家族や東市来町長、同町議会議長出席のもと、除幕式が行われました。また、2003(平成15)年には、20周年記念に合わせて鹿児島県日置郡東市来町長里にも「永山在兼顕彰の碑」を建立し、徳永町長や下茂東市来町長、永山氏のご家族などが出席、除幕式が行われました。



平成15年建立 東市来町

さまざまな交流を重ねて 理解と友好を深めた日々

こうして、本町が東市来町と姉妹町盟約を結んだのが1983(昭和58)年。10月には本町で、11月には東市来町でそれぞれ調印式が行われました。

以来、さまざまな交流事業を行っています。代表的なものでは、1990(平成2)年から始まった中学生交流事業は2年おきに行われており、本町の中学生が日置市(旧東市来町)を、日置市の中学生が本町を訪れ、文化や風土の違いを感じながら、相互理解を深めています。現在の鹿児島県日置市 永山由高市長も25年前に中学生交流事業により来町されていました。



昭和55年建立 弟子屈町

姉妹都市盟約締結40周年によせて(式典のしおりより)



鹿島県日置市長 永山由高

昭和の初め、故永山在兼氏が北海道東地区の開発に尽力され、中でも国道241号線の阿寒湖から弟子屈町を結ぶ約40キロの阿寒横断道路開削の難工事を完成させ、後に阿寒国立公園の指定や道東観光発展の基礎を築くことに寄与されたというご縁で、昭和58年に旧東市来町と姉妹町盟約を締結させていただきました。平成17年に日置市に合併後も盟約を継承し、無事に40周年の節目の年を迎えることができ、大変うれしく思います。私自身、25年前に東市来中学校の生徒として交流事業に参加し、遠く離れた北海道に友人ができると同時に、この日本の南北の長さを肌で感じたことが、自分の価値観形成に大きな影響を与えています。

この40年間は中学生交流事業に始まり、両市町の特産品販売など、様々な分野での交流を通じて、繋がりを深めることができたと感じております。

40周年の節目をむかえ、徳永哲雄町長様をはじめ、関係各位に敬意を表し心から厚く御礼申し上げますとともに、弟子屈町のこれからの益々のご発展をご祈念申し上げます、姉妹都市盟約40周年によせる言葉とさせていただきます。



北海道弟子屈町長 徳永哲雄

昭和58年に旧東市来町と姉妹町盟約を締結、平成17年に日置市となられてからも姉妹都市盟約を継承し、本年40周年を迎えました。故永山在兼氏が弟子屈町から西に走る阿寒への道をつないだご縁から、日本の南北に暮らす私たちのご縁へとつながりましたことに改めて感銘を受けますとともに、これまでの姉妹都市交流に深く感謝を申し上げます。

この40年の間、中学生による交流事業、それぞれの特産品の販売交流事業などを進め、平成27年には「摩周カルデラ」という、日置市からお譲りいただきました黒毛和牛から本町の新たな特産品を創出することができました。また、永山市長におかれましては、中学生時代に交流事業で来町されており、姉妹都市関係の絆が芽吹かれたような気がいたします。

40周年の節目に当たり、永山由高市長様をはじめ、関係各位に敬意を表するとともに、日置市並びに市民の皆様の益々のご繁栄をご祈念申し上げます、姉妹都市盟約40周年記念の言葉とさせていただきます。



平成25年 日置市から贈られた繁殖用肉牛「かねはる」とその子「喜金春」



令和5年8月 中学生交流事業

また近年は、互いのまちを行き来し、の物産交流も実施。さらに平成25年5月には、鹿児島県畜産共進会でグラントチャンピオンに輝いた繁殖用肉牛「かねはる」をはじめ、現在までに3頭の和牛が日置市から本町に贈られるなど、畜産業での交流も行われています。

40周年記念式典
今後変わるぬ友好誓う

本町と日置市との姉妹都市盟約締結40周年記念式典が11月4日、鹿児島県日置市で行われました。式典には、徳永町長をはじめとした弟子屈町訪問団、日置市の永山市長や同市議会の並松安文議長など約80人が出席し、節目を祝いました。記念品の交換では、本町からは本町在任の写真家 水越武氏が撮影した「カムイヌプリ(摩周岳)、摩周カルデラの外輪山の写真」が、日置市からは同市美山地区のガラス工房 ウェルハンス 井出江里子氏による「レースガラスの器」がそれぞれ贈られました。



弟子屈町から日置市へ「カムイヌプリ摩周岳、摩周カルデラの外輪山の写真」

また、釧路湿原・阿寒・摩周シニックバイウェイ(桐木茂雄ルート代表)では、永山在兼氏の偉業を再認識するために阿寒横断道路の環境整備や永山峠の標柱設置などに取り組んでおり、その一環として「永山在兼物語」道路づくりの人生を捧げた「阿寒国立公園の父」と「永山在兼」大自然を車で旅する時代へ「観光と道路を結び付けた先駆者」の2冊の郷土学習副読本を刊行しました。式典では、2冊を監修した永山在兼氏のお孫さん 田中みどり氏も出席し、両市町へそれぞれ100部ずつが贈呈されました。

永山在兼
～大自然を車で旅する時代へ
観光と道路を結び付けた先駆者～



発行: 草野作工株式会社

永山在兼物語
～道路づくりの人生を捧げた
「阿寒国立公園の父」～



発行: 釧路湿原・阿寒・摩周シニックバイウェイ発行



弟子屈音頭



ひおき武将隊甲冑着付け体験

式典の後は交流会が行われ、ひおき武将隊の甲冑着付け体験や参加者全員で弟子屈音頭を踊るなど、大いに盛り上がり、和やかなひとときを過ごしました。

また、40周年を記念した物産交流展が、9月2日に本町で、11月4日には日置市で開催されました。日置市からは黒毛和牛やさつまあげ、サツマイモ、ちりめんじゃこなどの特産品が、本町からはいもだんごや摩周湖限定の摩周霧ソフトクリーム、牛乳、乳製品、じゃがいもに加えて摩周そばの試食会を行うなど、多くの人でにぎわいました。

これからは、2024(令和6)年の阿寒摩周国立公園指定90周年に合わせ



鹿児島県日置市物産展(JA摩周湖)



北海道弟子屈町物産展(江口蓬菜館)

せた鹿児島県日置市市民ツアーの開催、その翌年2025(令和7)年には弟子屈町民ツアーの開催を予定しています。また、中学生交流事業や物産交流などを継続し、変わらぬ友好交流により次の50周年に向かって相互の発展を目指します。

日置市から弟子屈町へ「レースガラスの器」

